

高齢者腹膜透析を考える会」2025年5月9日

京都PD地域連携WG 腎代替療法選択支援チーム 活動報告

医療法人 正木医院
正木浩哉

腎代替療法選択支援チーム

正木 浩哉（医師）、金子恵一（医師）、
小林 達也（医師）、江上 豊（看護師）
大槻 直博（看護師）、田村 三矢子（看護師）

腎代替療法選択支援チーム発足の背景

日本の透析医療が抱える問題点

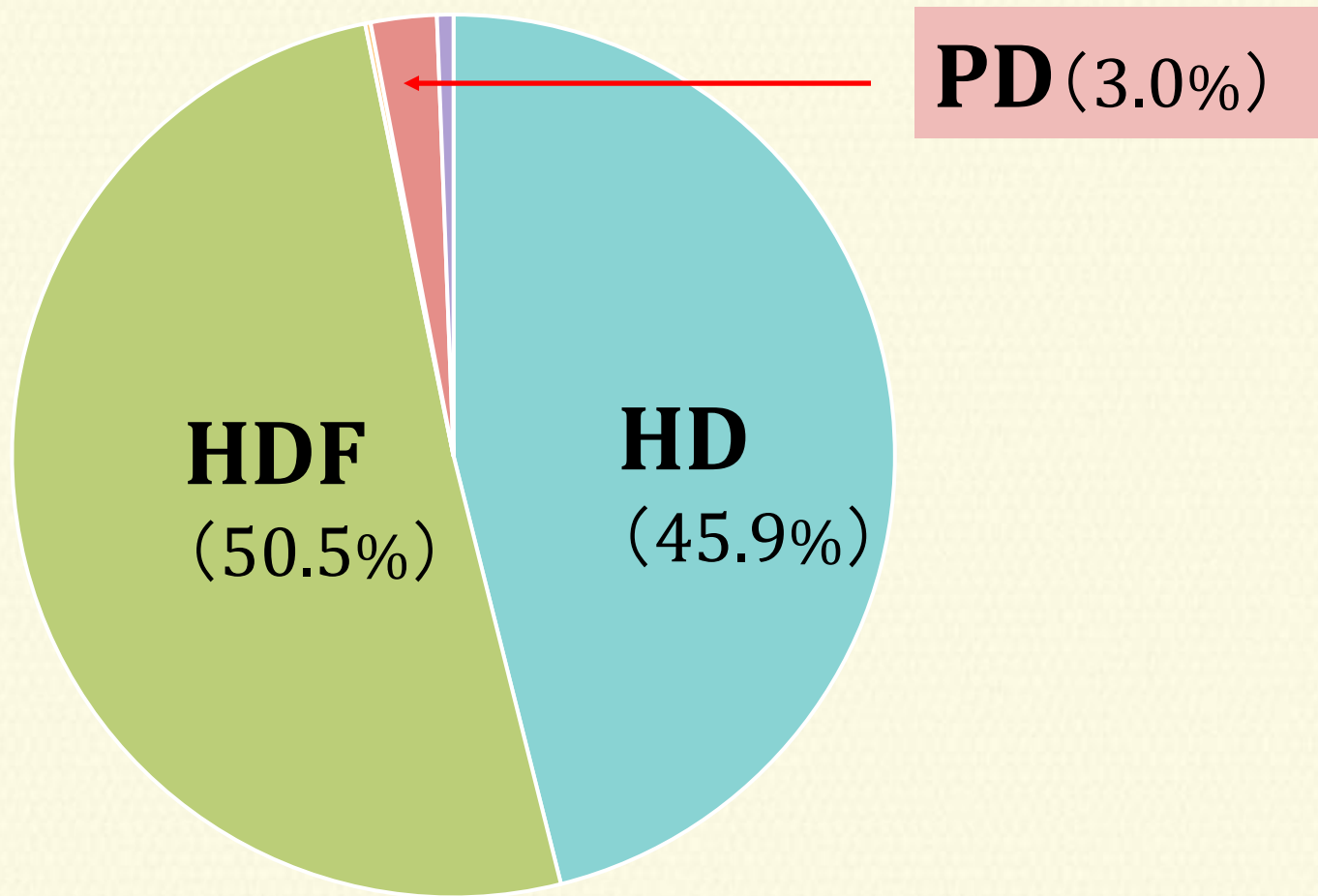
- 血液透析（HD）97%、腹膜透析（PD）3%と他国と比較しても極端にHDに偏っている。
- 平均透析導入年齢が約71歳と高齢化している。

腎代替療法の種類

- **腎臓移植**
- **施設血液透析，家庭血液透析**
- **腹膜透析**
- **CKM（保存的腎臓療法）**

透析や腎移植を行わずに医療チームがよりよい最期を迎えられるようケアを継続するもの

透析療法の種類別



■ HD ■ HDF ■ HHD ■ PD ■ PD+HD

出典：一般社団法人 日本透析医学会 わが国の慢性透析療法の現状(2021年12月31日現在)

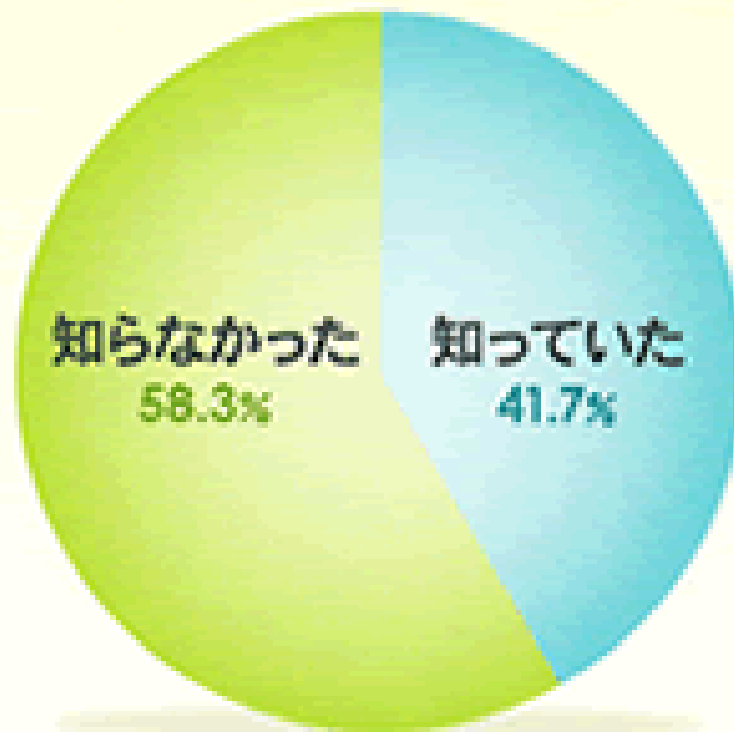
腹膜透析が極端に少ない理由

- **患者の高齢化に伴い自己で腹膜透析が出来ない患者の増加**
- **腎代替療法選択の際に腹膜透析について十分な説明がされていない。**

図8

保存期に各種透析方法を知っていたか

n=487



株式会社 医療経営戦略研究所
透析JOURNAL より引用

医療者には腎代替療法のそれぞれの特性を 理解したうえで、患者にすべての療法を提示 し説明する義務がある

もし、十分な説明をせず患者から訴えられると説明義務違反を認定される可能性が高い

（竹口 文博先生 医師、弁護士 東京医科大学）

腎代替療法選択チームの活動目標

- 京都における腎代替療法選択説明の現状と問題点を把握
- 適正な腎代替療法選択の実施に向けての具体策の提言
- 適正な腎代替療法選択実施に向けての広報活動
- 腎代替療法選択の実施状況の継続的なモニタリング